

飢肥中学校だより R5-3月号

飢肥中でよかった

～ちがいをちからにする学校～



＜学校の教育目標のスローガン＞

自立・共生・感謝

令和5年3月30日(木)

■卒業式式が行われました■

3月16日(木)に第76回卒業式が行われました。今回は来賓として、日南市教育委員会、学校運営競技会委員、PTA副会長に御参列していただきました。校長先生からは、3年生の学習や学校行事に取り組む姿勢が立派であったことや校長先生自身が飢肥中で本当によかったなどの式辞を述べられました。答辞では、在校生や同級生、保護者や地域の方々への感謝が伝えられました。卒業式での答辞を紹介いたします。

答 辞

暖かな陽の光を感じ、美しい鶯の声が響き渡る季節となりました。

思い返すと三年前、私たちはこれから始まる新しい学校生活に期待を膨らませながら青春ロードを通り、この飢肥中学校にやってきました。そして、先輩たちの何事にも一生懸命に取り組む輝いた姿を見て、私たちも同じようになりたいと強く思いました。

二年生になり、後輩が入ってきて初めて先輩という立場になりました。嬉しい気持ちの反面、時には先輩としての在り方に頭を抱える場面もあったことを思い出します。二年生の一番の思い出はやはり修学旅行です。新型コロナウイルスの影響で県内となりましたが、宮崎の魅力を改めて感じることでできる良い機会になりました。

そして三年生、私たちは最高学年として学校を作り上げていく存在になりました。この一年間は中学校生活最後の年ということもあり、行事一つ一つに一段と気合いが入りました。一番印象的なのは体育大会でした。特に演舞が思い出に残っています。初めは意見の違いなどで練習がうまくいきませんが、長い練習の中で絆が生まれ、本番では赤団・青団共に息の合ったパフォーマンスができました。また、文化発表会では一・二年生の声量や勢いに圧倒されたときもありましたが、私たちがらしさを表現していこうと練習を重ね、当日はこれまでに無いくらい良い合唱ができたと思います。

こうした私たちの中学校生活は、新型コロナウイルスと共に歩んできた三年間でした。入学してすぐに臨時休業。中止や縮小された行事。コロナ禍でなかったら…と考えることもありましたが、コロナ禍だからこそ経験できたこと、学べたこともたくさんありました。この三年間で私たちは大きく成長できたと思います。

さて、在校生の皆さん、今まで私たちについてきてくれてありがとうございました。先輩と呼んでくれたことが何よりも嬉しかったです。近年、校則や制服が変わるなど、様々なものやことが変化しています。後輩の皆さんには飢肥中の伝統を受け継ぐとともに、こういった時代の変化に適応して学校をよりよくして欲しいと思います。私たちはこれからも皆さんを応援していきます。

三年生のみんな、これまで楽しく充実した時間をありがとうございました。時には対立したり、一緒に先生に叱られたりしましたが、その分仲が深まり、絆も強くなったと思います。みんなと離ればなれになってしまうのは名残惜しい気持ちもありますが、私たちはこれから自分の目標に向けて前に進まなければなりません。大変な思いをすることもありますが、その時は是非、この飢肥中学校の三年間の経験を思い出してください。

先生方、これまで本当にお世話になりました。先生方はコロナ禍の中でも私たちに成長の機会をたくさん作って下さいました。様々な場面でご指導して頂きましたが、その全てから私たちへの深い愛を感じました。心から感謝しています。ご指導して頂いたことを忘れずにこれからの人生に繋げていきます。

保護者の皆様、家族のみんな。この十五年間、私たちを見守って頂きありがとうございました。家族の温かい言葉かけ、ほっとする温かな場所があったからこそ、何事にもめげずに取り組むことができました。これからも迷惑をかけることがあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、これまで私たちのために尽力して下さった学校関係者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

皆様のご健康とご多幸を、飢肥中学校のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十六日 卒業生代表 川口 小春

